

第128回日本解剖学会総会・全国学術集会

2023年3月20日

(医療専門職教育委員会)

医療専門職養成校(課程)における解剖学教育に関するワークショップ

理学療法士養成校における解剖学教育の 現状と未来に向けた課題

浦川 将, 藤田直人

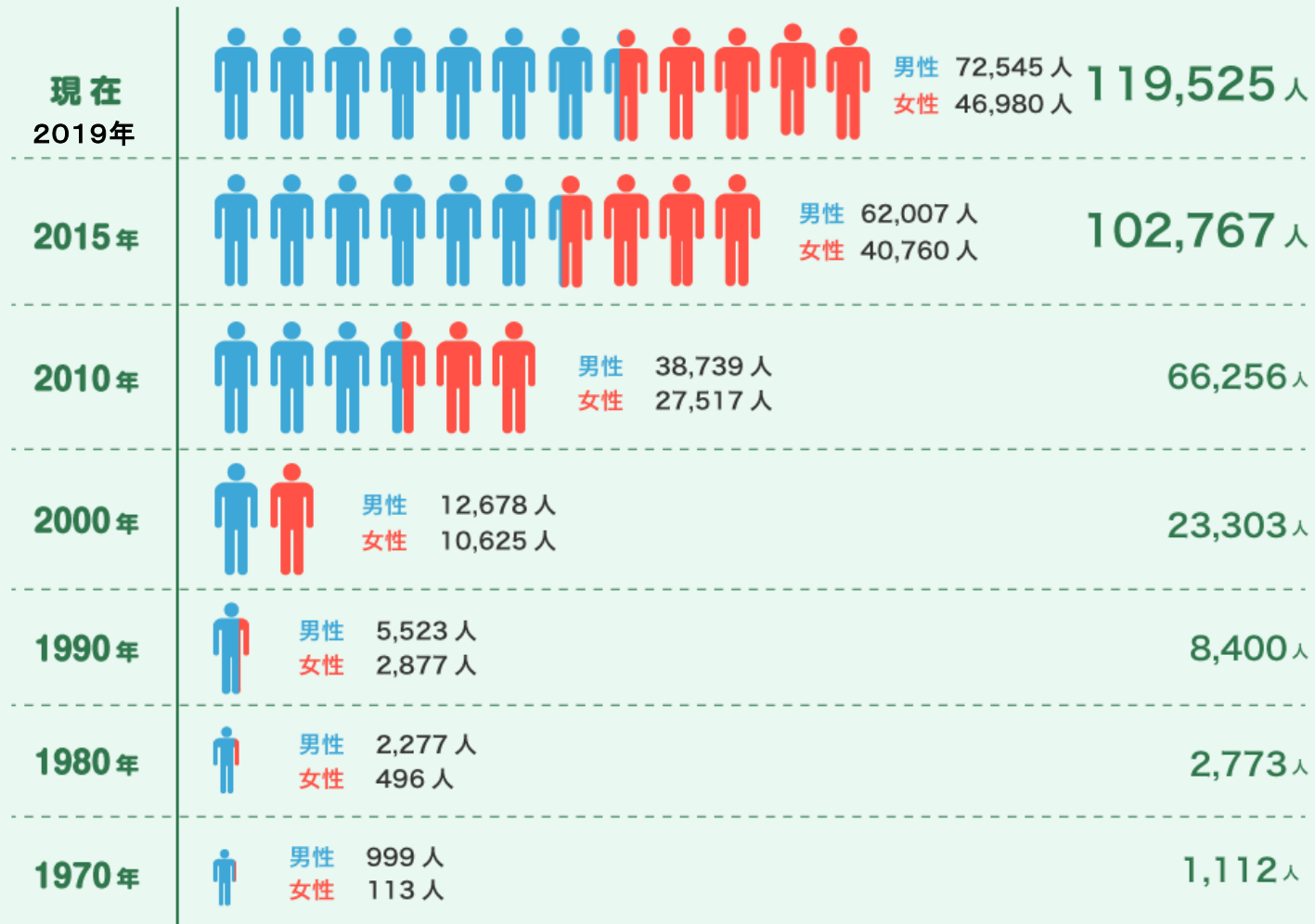
広島大学大学院医系科学研究科運動器機能医科学



この講演において
開示すべきCOIはありません。

理学療法士をとりまく環境の変化

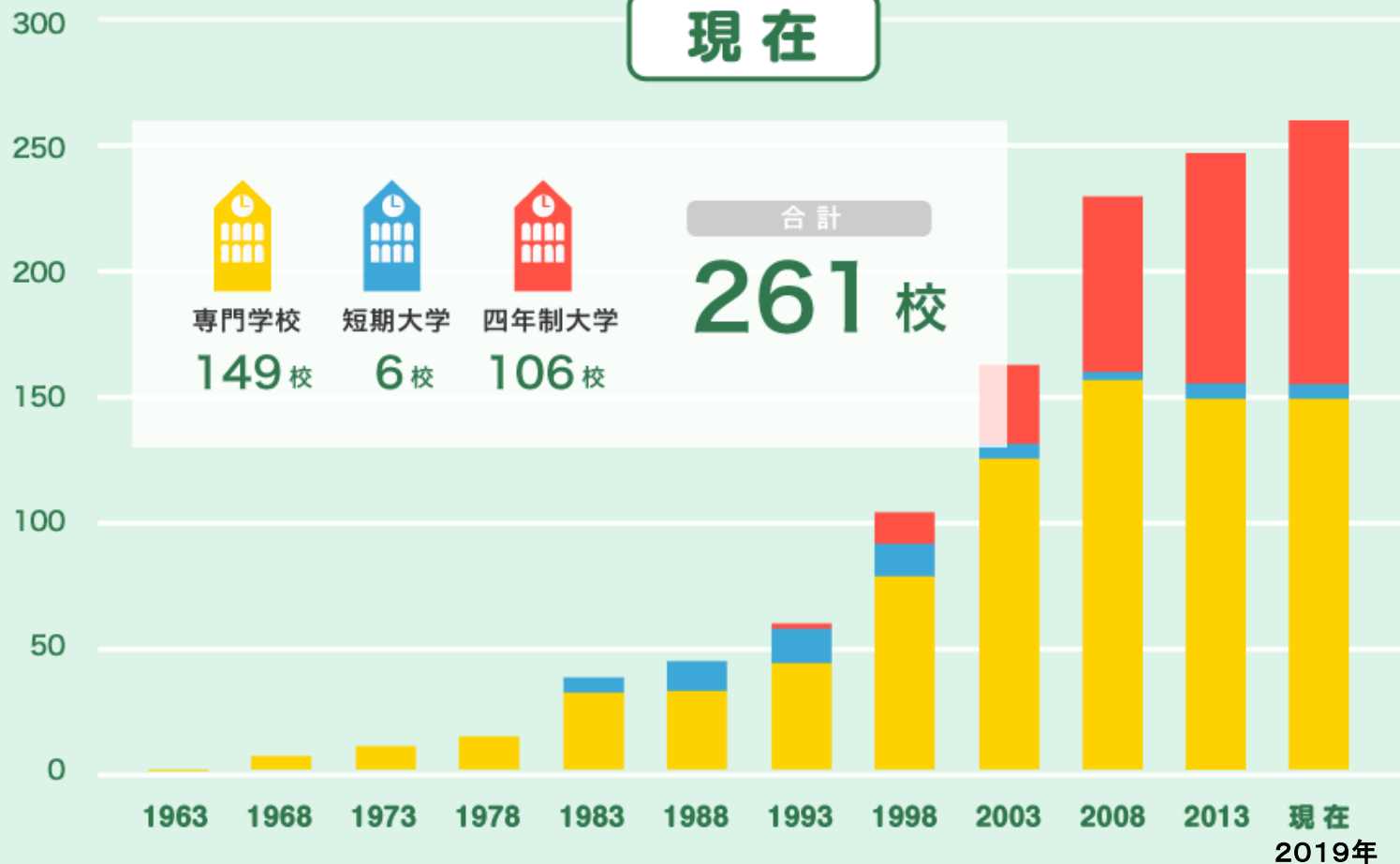
会員数推移



理学療法士をとりまく環境の変化

養成校数

現在



理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則

→改正(2020年度から)の変更概要

厚生労働省からの通知「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の一部を改正する省令案について」

- **高齢化**の進展に伴う医療需要の増大や、**地域包括ケアシステム**の構築等により、理学療法士および作業療法士に求められる役割や知識が大きく変化
- 国民の信頼と期待に応える質の高い理学療法士および作業療法士を要請する仕組みを維持・発展させる

教育分野	教育内容	単位数
基礎分野	科学的思考の基盤	14
	人間と生活	
	<u>社会の理解</u>	
	(小 計)	(14)
専門基礎分野	<u>人体の構造と機能および心身の発達</u>	12
	疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進	<u>14</u>
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	4
	(小 計)	<u>(30)</u>

教育分野	教育内容	単位数
専門分野	基礎理学療法学	6
	<u>理学療法管理学</u>	2
	理学療法評価学	6
	理学療法治療学	20
	地域理学療法学	<u>3</u>
	臨床実習	<u>20</u>
	(小 計)	<u>(57)</u>
	合 計	<u>101</u>

注) 一重下線は、新設もしくは増加単位、二重下線は、削減された単位

理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則

→専門基礎分野

人体の構造と機能および心身の発達

(解剖学関連領域)

人体の構造と機能及び心身の発達を系統だてて理解できる能力を培う

理学療法学教育 モデル・コアカリキュラム (日本理学療法士学会コア・カリキュラム委員会)

(理学療法士のコアとなる学修項目、到達目標は何か)

◆ 身体を構成する組織と器官の構造と機能について理解する

【構造と機能】

骨・関節、骨格筋、神経(末梢・中枢神経)、消化器(胃・腸・肝臓など)

循環器(心臓・血管など)、呼吸器(気管支、肺など)、内分泌器、泌尿器、生殖器

理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則

広島大学保健学科 理学(作業)療法学専攻の解剖学

1年生前期・後期で解剖学講義

2年生前期→解剖学実習Ⅰ：骨学、神経系脳実習、組織学実習

2年生後期→解剖学実習Ⅱ：ご遺体の実習(1日2コマ×15回)全身解剖

理学療法学教育 モデル・コアカリキュラム(日本理学療法士学会コア・カリキュラム委員会)

(理学療法士のコアとなる学修項目、到達目標は何か)

◆ 身体を構成する**組織と器官の構造**と機能について理解する

【構造と機能】

骨・関節、骨格筋、神経(末梢・中枢神経)、消化器(胃・腸・肝臓など)

循環器(心臓・血管など)、呼吸器(気管支、肺など)、内分泌器、泌尿器、生殖器

理学療法士をとりまく環境の変化

→2013年に、分科学会と部門設立
2021年、学会法人化へ
専門領域に特化した活動を

日本理学療法学会連合
ホームページ

法人学会

- ト (一社) 日本運動器理学療法学会 
- ト (一社) 日本基礎理学療法学会 
- ト (一社) 日本呼吸理学療法学会 
- ト (一社) 日本支援工学理学療法学会 
- ト (一社) 日本小児理学療法学会 
- ト (一社) 日本神経理学療法学会 
- ト (一社) 日本循環器理学療法学会 
- ト (一社) 日本スポーツ理学療法学会 
- ト (一社) 日本地域理学療法学会 
- ト (一社) 日本糖尿病理学療法学会 
- ト (一社) 日本予防理学療法学会 
- ト (一社) 日本理学療法教育学会 

研究会

- ト 日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会 
- ト 日本栄養・嚥下理学療法研究会 
- ト 日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会 
- ト 日本産業理学療法研究会 
- ト 日本精神・心理領域理学療法研究会 
- ト 日本筋骨格系徒手理学療法研究会 
- ト 日本物理療法研究会 
- ト 日本理学療法管理研究会 

理学療法士をとりまく環境の変化

→2013年に、分科学会と部門設立
2021年、学会法人化へ
専門領域に特化した活動を

日本理学療法学会連合
ホームページ

法人学会

- ト (一社) 日本運動器理学療法学会 
- ト (一社) 日本基礎理学療法学会 
- ト (一社) 日本呼吸理学療法学会 
- ト (一社) 日本支援工学理学療法学会 
- ト (一社) 日本小児理学療法学会 
- ト (一社) 日本神経理学療法学会 
- ト (一社) 日本循環器理学療法学会 
- ト (一社) 日本スポーツ理学療法学会 
- ト (一社) 日本地域理学療法学会 
- ト (一社) 日本糖尿病理学療法学会 
- ト (一社) 日本予防理学療法学会 
- ト (一社) 日本理学療法教育学会 

研究会

- ト 日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会 
- ト 日本栄養・嚥下理学療法研究会 

2016年～

解剖学実習ワーキンググループ



2022年～

合同人体解剖学実習検討委員会

アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

2016年

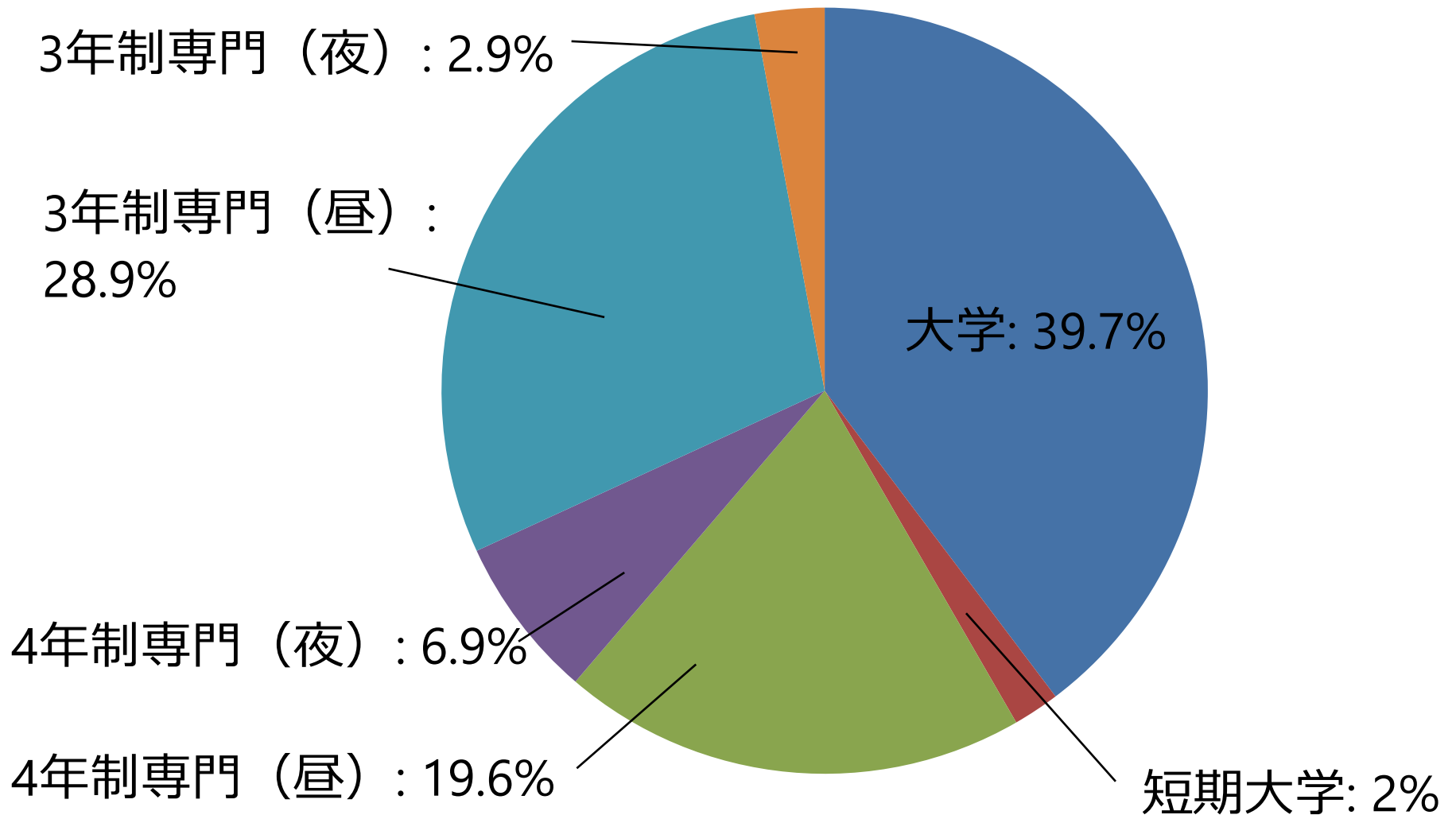
日本基礎理学療法学会と日本教育理学療法学会で組織された、
解剖学実習ワーキンググループにより実施

- 対象：日本全国の理学療法士養成施設
258校299課程
- 方法：（公社）日本理学療法士協会
webアンケートシステム
- 期間：2016年9月16日～2016年10月24日
- 回答：204件／299課程（回答率68.2）

下記URLにて公開

https://www.google.com/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&ved=2ahUKEwiLzuH9mfT9AhVGr1YBHRChDdcQFnoECA8QAQ&url=https%3A%2F%2Fwww.japanpt.or.jp%2Fassets%2Fpdf%2Factivity%2Finvestigation%2Fzintaikabo_Q_2017.pdf&usg=AOvVaw1P77AoBsTmkr7gjXvxpYS1

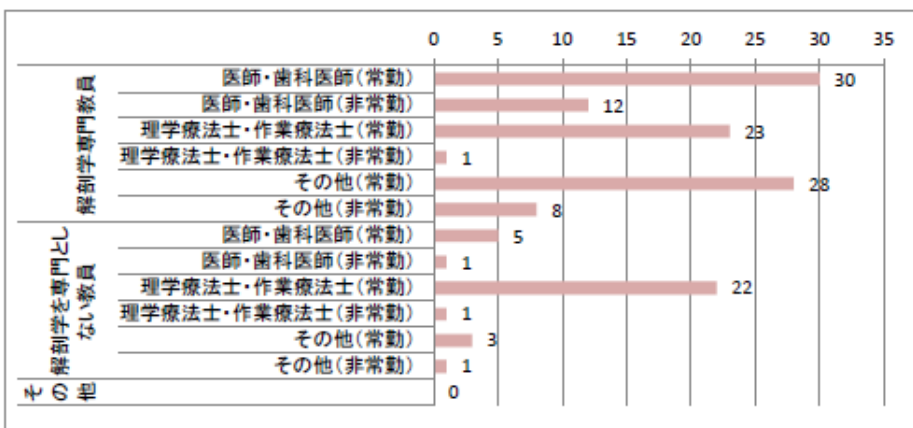
アンケートからみる理学療法士の解剖学実習



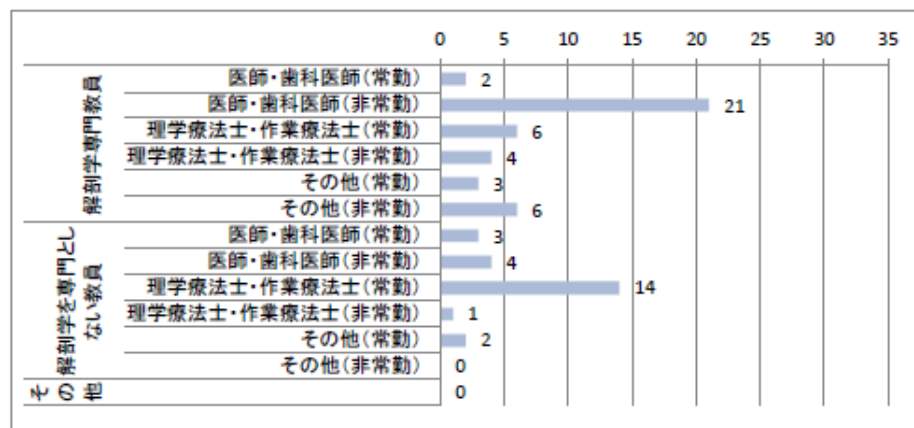
アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

誰が解剖学を担当しているか

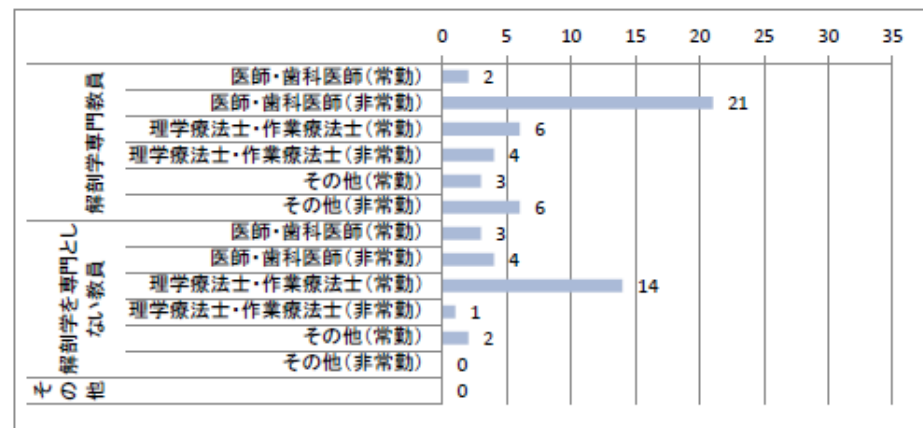
■大学・短期大学 (n=85)



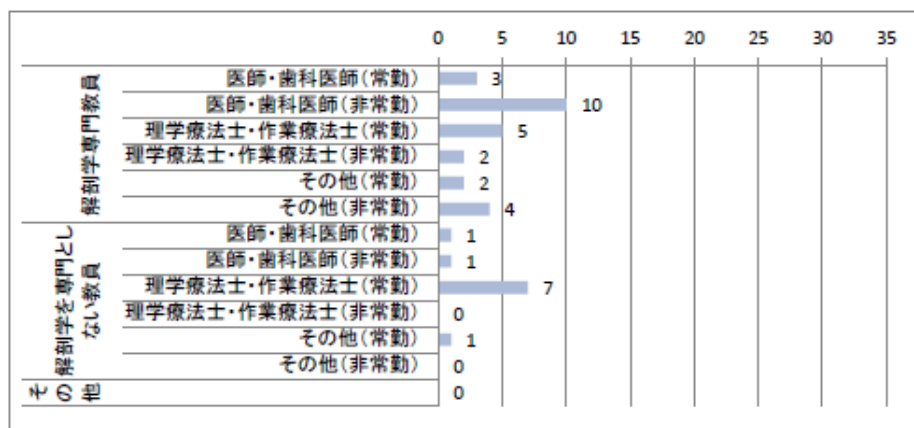
■4年制専門学校(昼間部) (n=40)



■3年制専門学校(昼間部) (n=59)



■4年制専門学校(夜間部)・3年制専門学校(夜間部) (n=20)

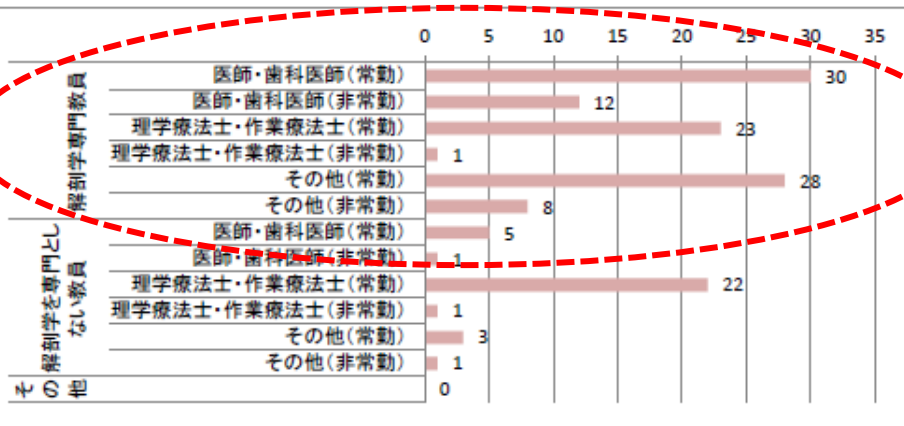


※解剖学専門教員とは、解剖学を主な教育・研究分野として、解剖学教室にて大学院生・研究生・共同研究員等として学んだ経験がある教員のことを言う。

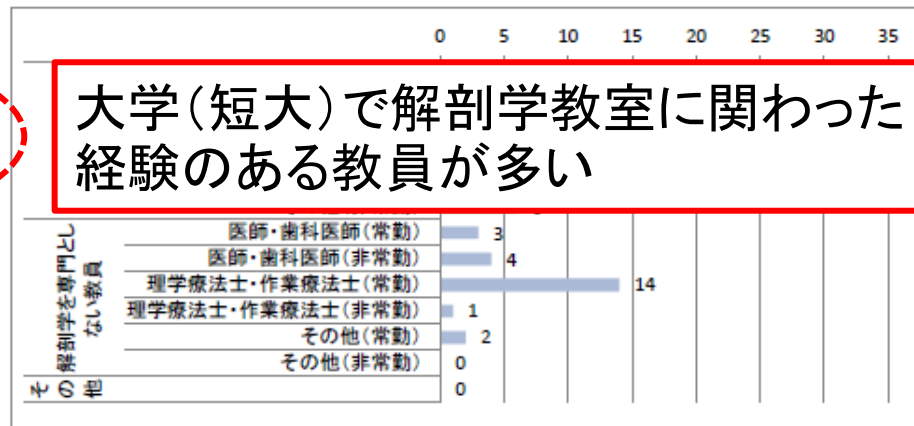
アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

誰が解剖学を担当しているか

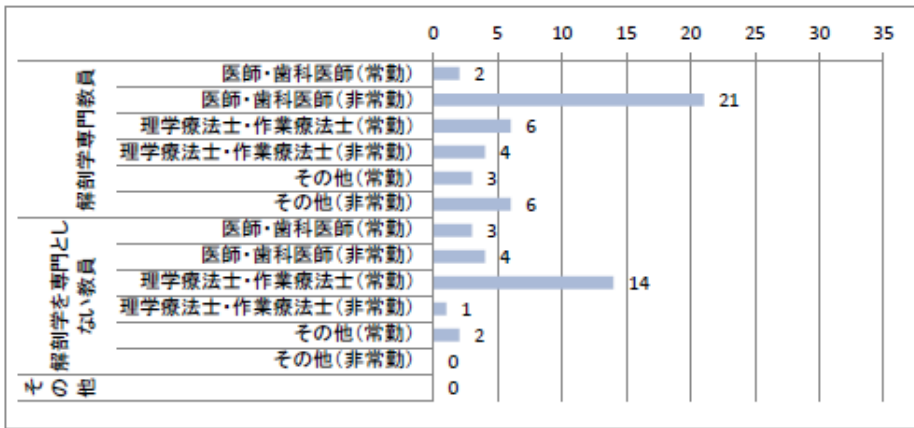
■大学・短期大学 (n=85)



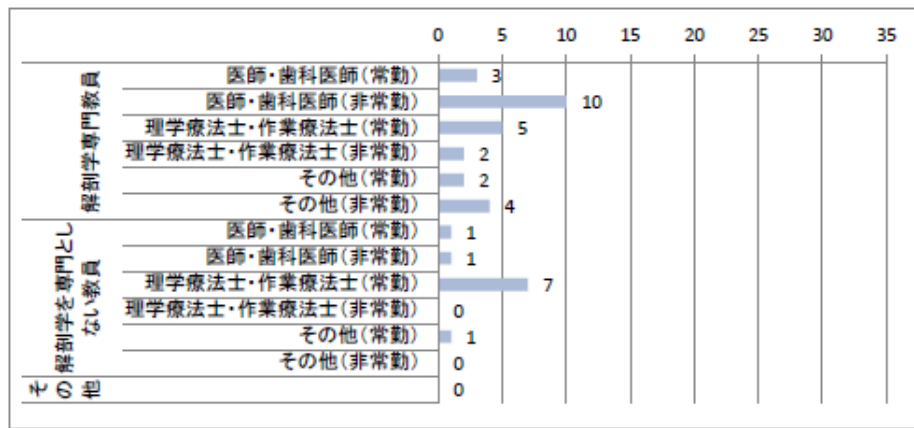
■4年制専門学校(昼間部) (n=40)



■3年制専門学校(昼間部) (n=59)



■4年制専門学校(夜間部)・3年制専門学校(夜間部) (n=20)



※解剖学専門教員とは、解剖学を主な教育・研究分野として、解剖学教室にて大学院生・研究生・共同研究員等として学んだ経験がある教員のことを言う。

アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

人体解剖学に関連する実習の取り組み内容

	(全体)
1 講義	179
2 模型を用いた実習	156
3 触察・触診による体表解剖学実習	146
4 動物肢体などを使用した剖出、見学等の実習	26
5 アトラスなどの書籍の模写	68
6 医学部または歯学部の人体解剖の見学	93
7 人体解剖学実習として、学生が直接ご遺体に触れる機会（剖出実習を含む）を設けている	143

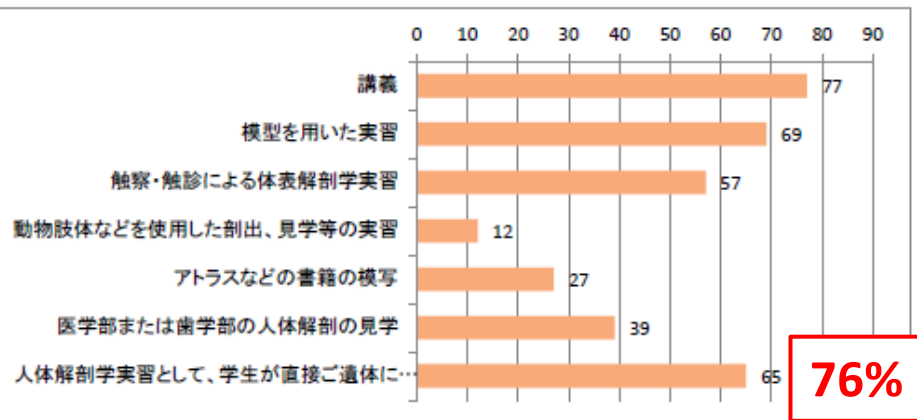
143/204

= **70%**

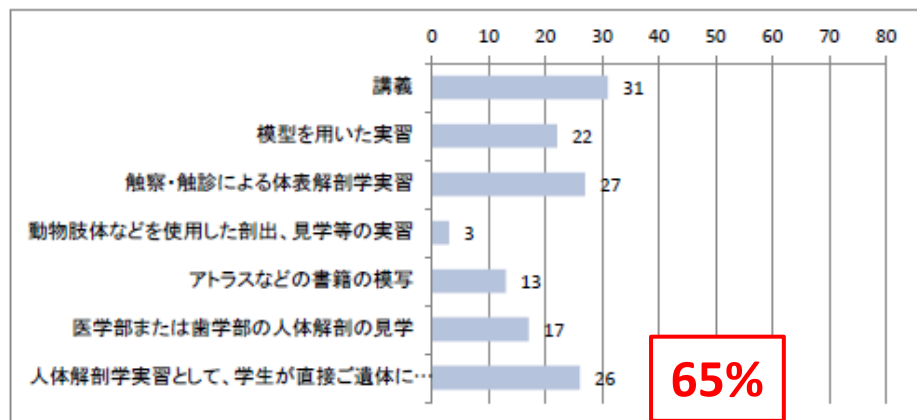
アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

人体解剖学に関連する実習の取り組み内容: 学生が**直接ご遺体に触れる**

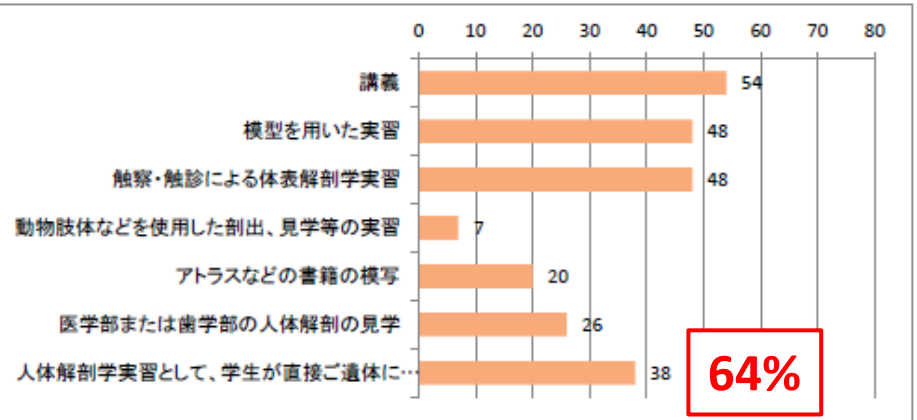
■大学・短期大学 (n=85)



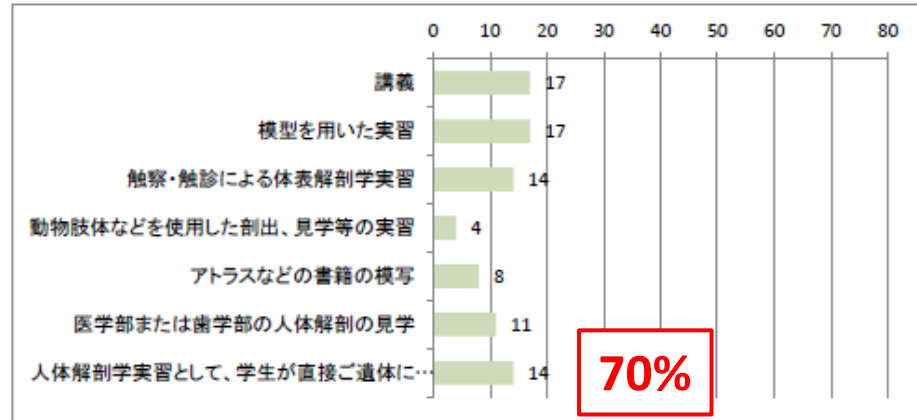
■4年制専門学校 (昼間部) (n=40)



■3年制専門学校 (昼間部) (n=59)



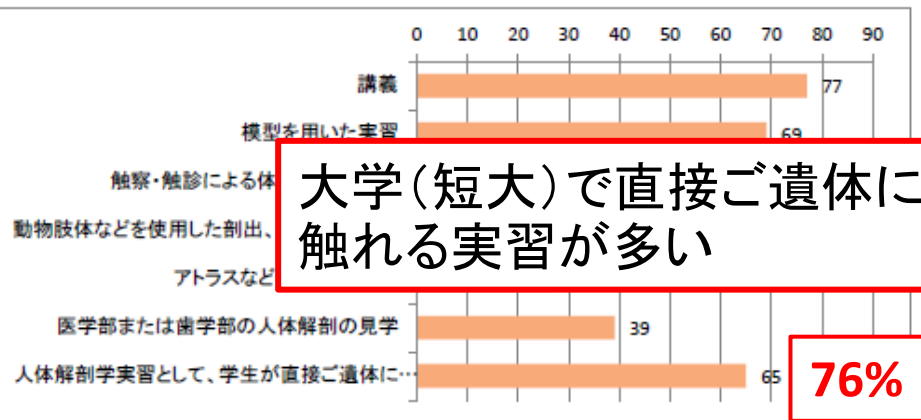
■4年制専門学校 (夜間部) ・ 3年制専門学校 (夜間部) (n=20)



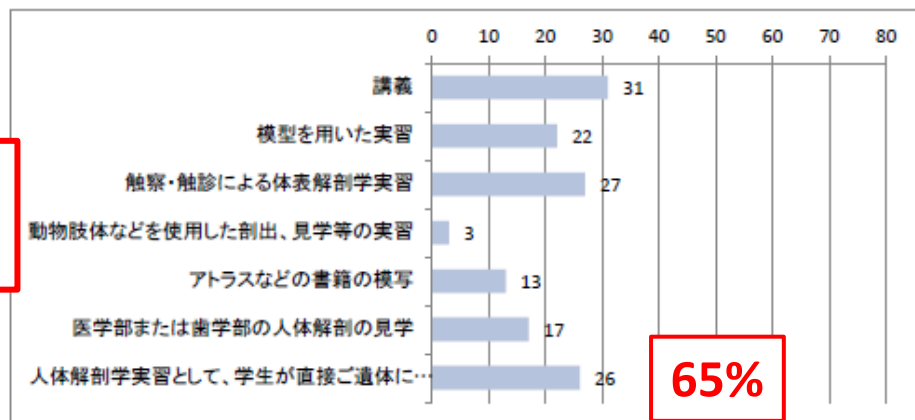
アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

人体解剖学に関連する実習の取り組み内容: 学生が**直接ご遺体に触れる**

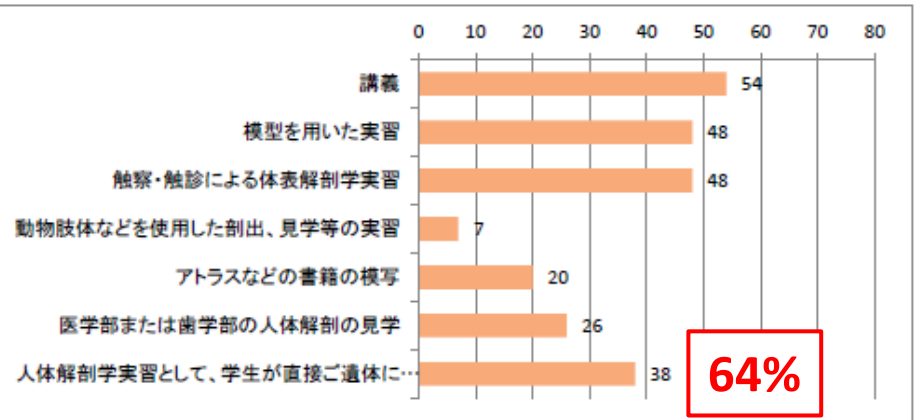
■大学・短期大学 (n=85)



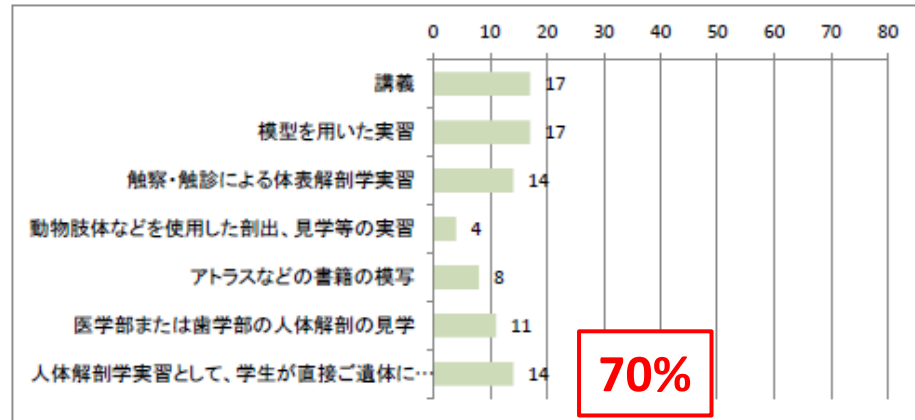
■4年制専門学校 (昼間部) (n=40)



■3年制専門学校 (昼間部) (n=59)



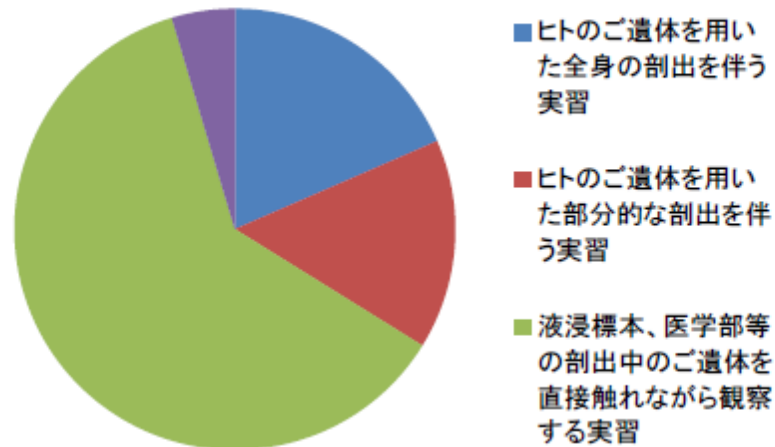
■4年制専門学校 (夜間部) ・ 3年制専門学校 (夜間部) (n=20)



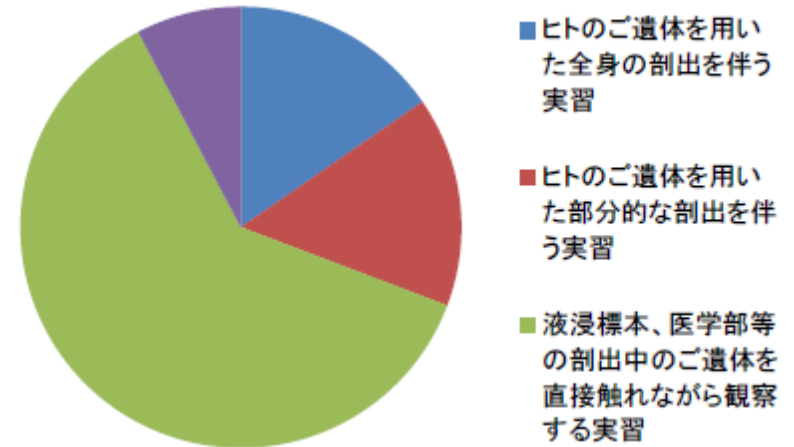
アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

学生が**直接ご遺体に触れる**→**内容**

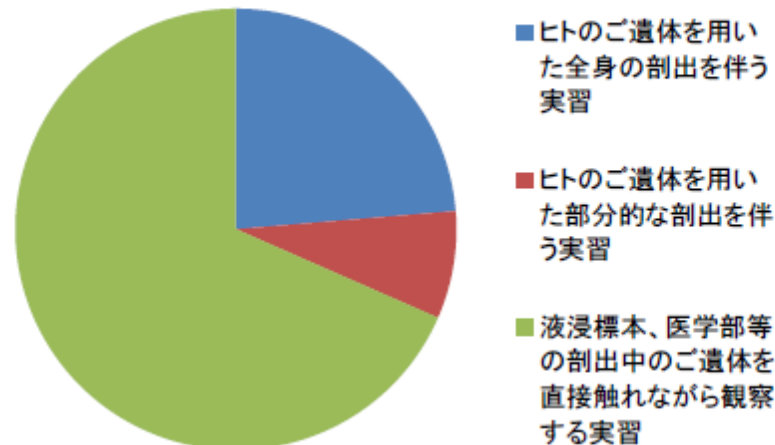
■大学・短期大学 (n=65)



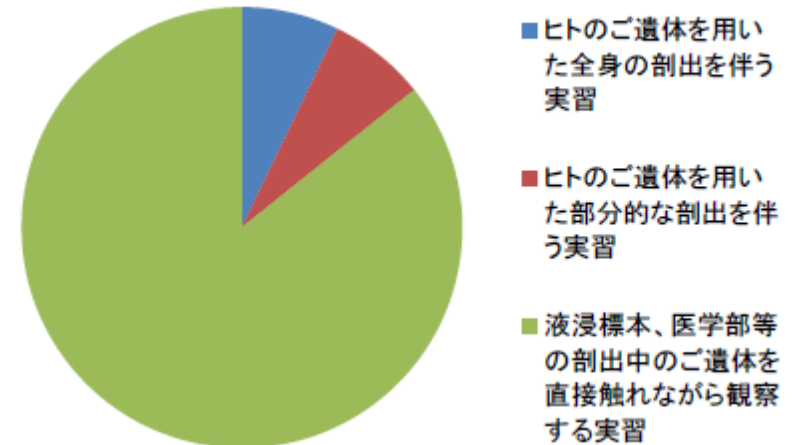
■4年制専門学校 (昼間部) (n=26)



■3年制専門学校 (昼間部) (n=38)



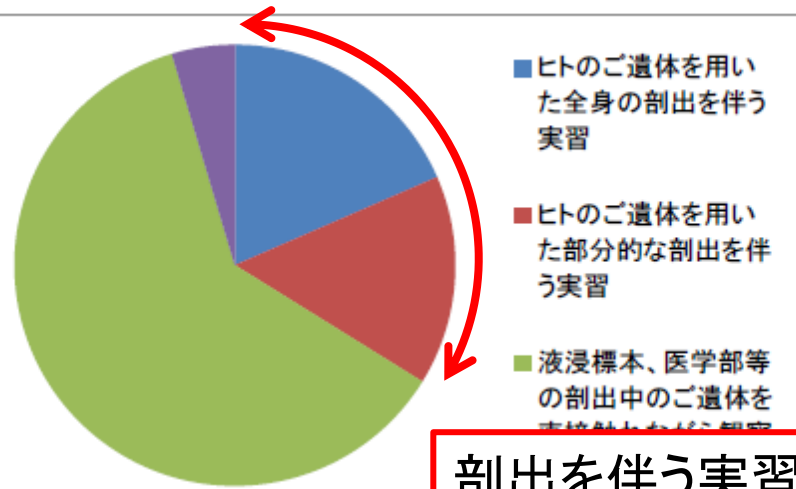
■4年制専門学校 (夜間部) ・ 3年制専門学校 (夜間部) (n=14)



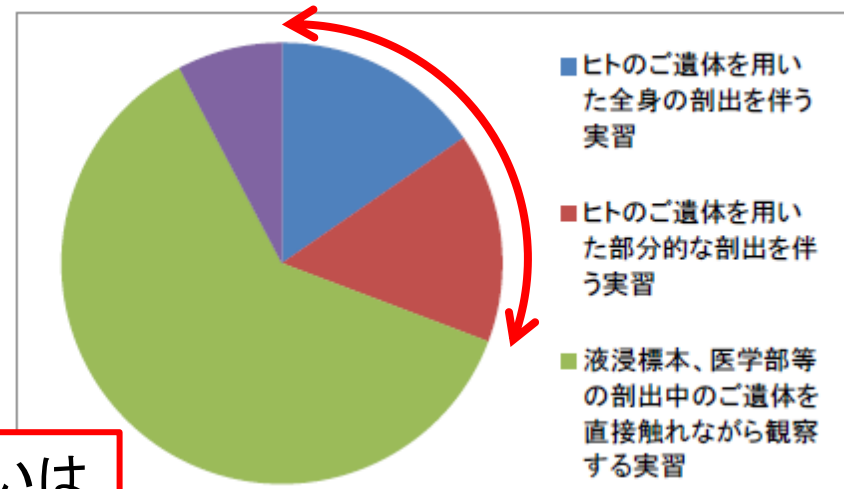
アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

学生が**直接ご遺体に触れる→剖出を伴う実習**

■大学・短期大学 (n=65)

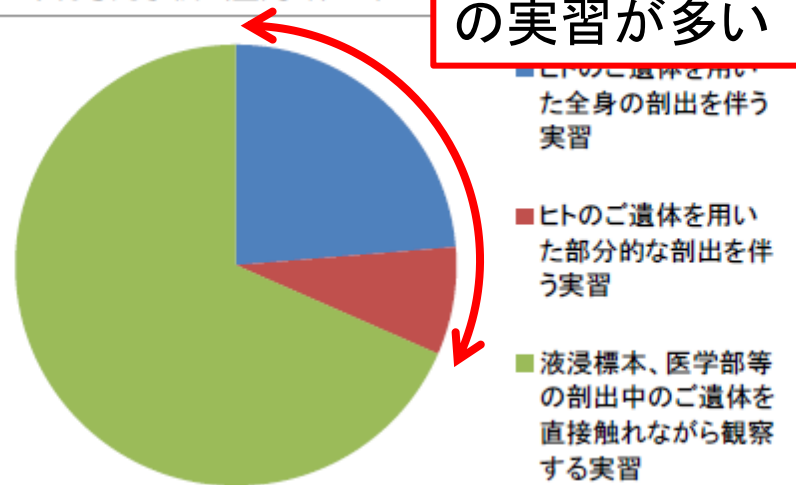


■4年制専門学校（昼間部）(n=26)

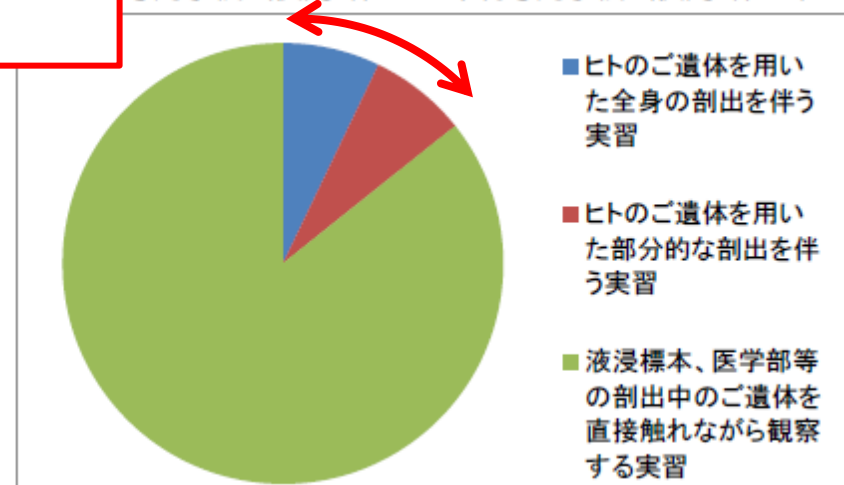


剖出を伴う実習の割合は高くなく、標本・医学部剖出の実習が多い

■3年制専門学校（昼間部）(n=)



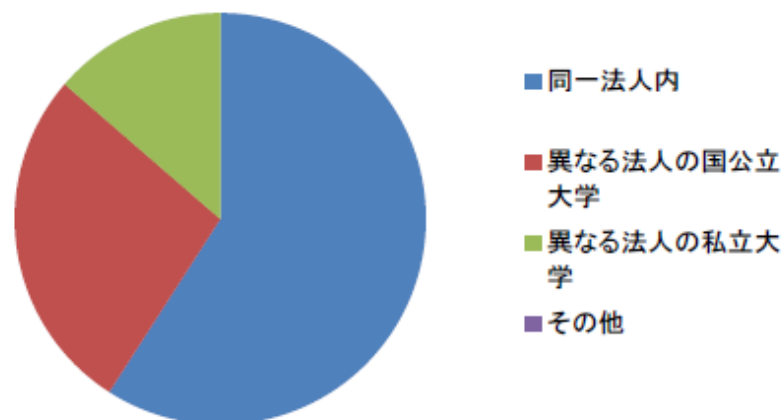
専門学校（夜間部）・3年制専門学校（夜間部）(n=14)



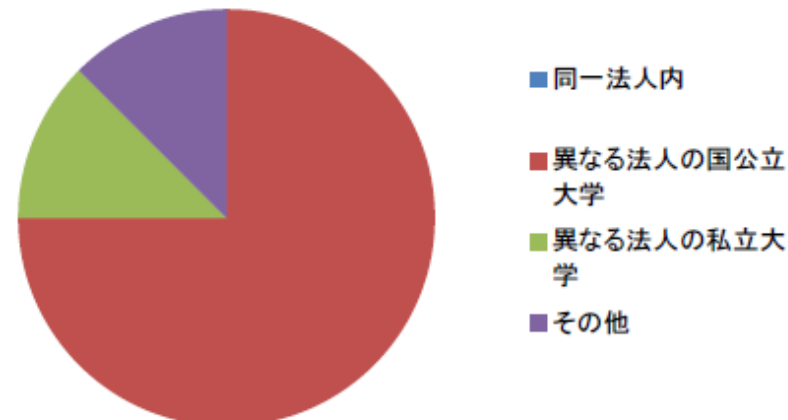
アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

剖出を伴う実習→どこで実施しているか

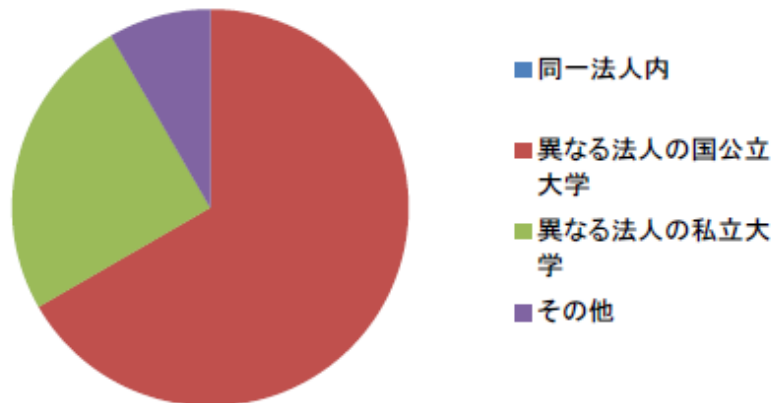
■大学・短期大学(n=22)



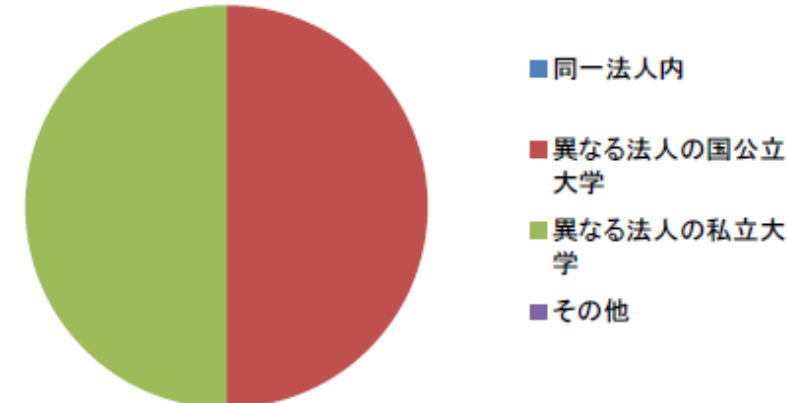
■4年制専門学校（昼間部）(n=8)



■3年制専門学校（昼間部）(n=12)



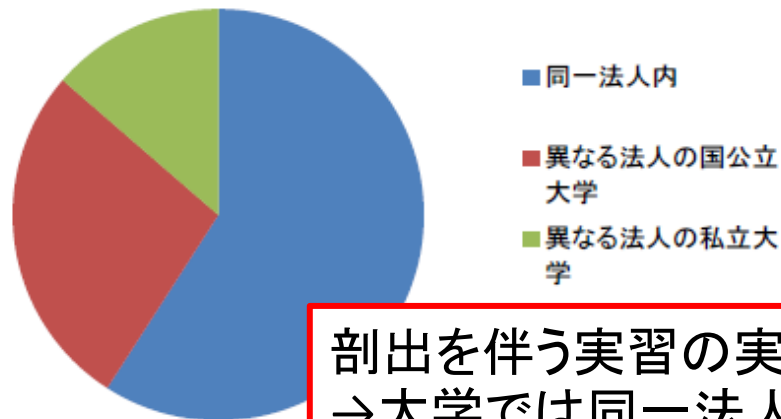
■4年制専門学校（夜間部）・3年制専門学校（夜間部）(n=2)



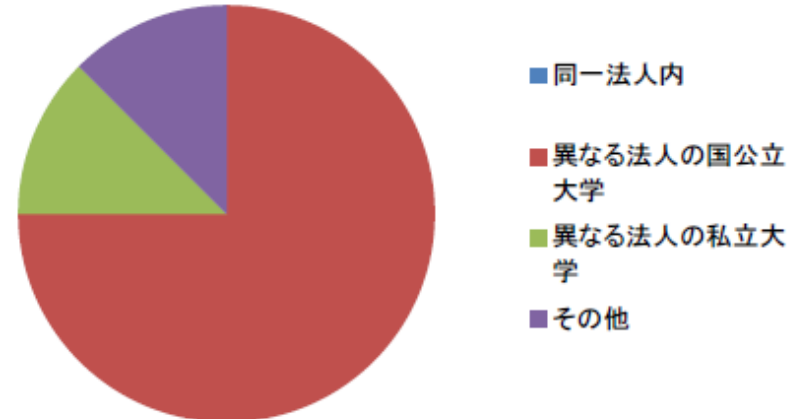
アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

剖出を伴う実習→どこで実施しているか

■大学・短期大学(n=22)

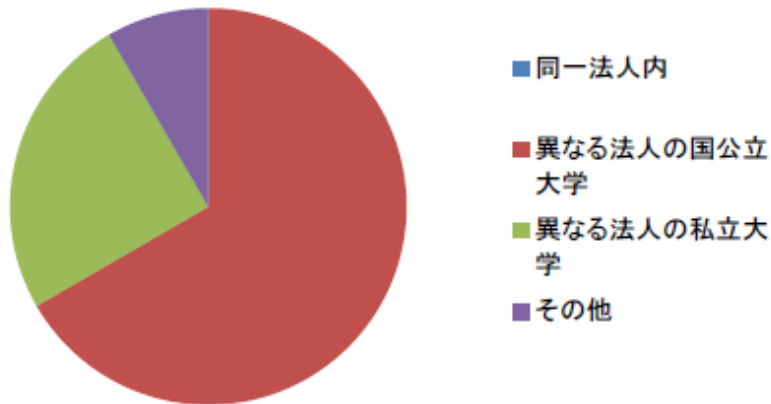


■4年制専門学校（昼間部）(n=8)

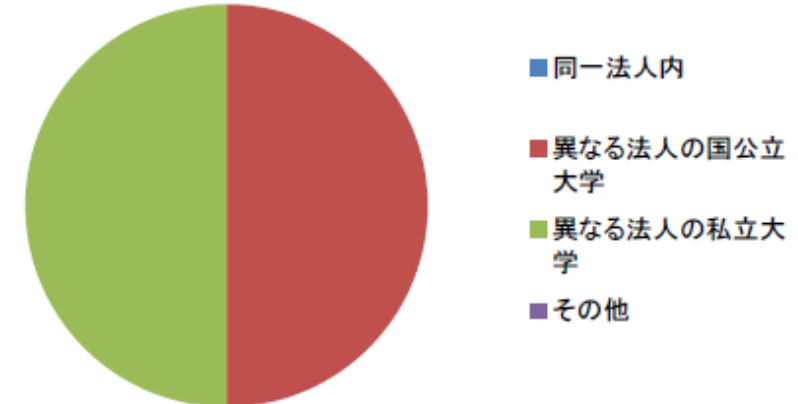


剖出を伴う実習の実施場所
→大学では同一法人内

■3年制専門学校（昼間部）(n=12)



■4年制専門学校（夜間部）・3年制専門学校（夜間部）(n=2)



アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

剖出を伴う実習→何回実施しているか

1回:90分

		(全体)	大学等	4年制(昼)	3年制(昼)	夜間
1	1回	2	0	2	0	0
2	2回	4	1	1	2	0
3	3-5回	9	3	0	4	2
4	6-9回	2	1	0	1	0
5	10-19回	5	3	0	2	0
6	20-29回	7	5	1	1	0
7	30回以上	6	6	0	0	0
8	その他	9	3	4	2	0
合計		44	22	8	12	2

アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

剖出を伴う実習→何回実施しているか

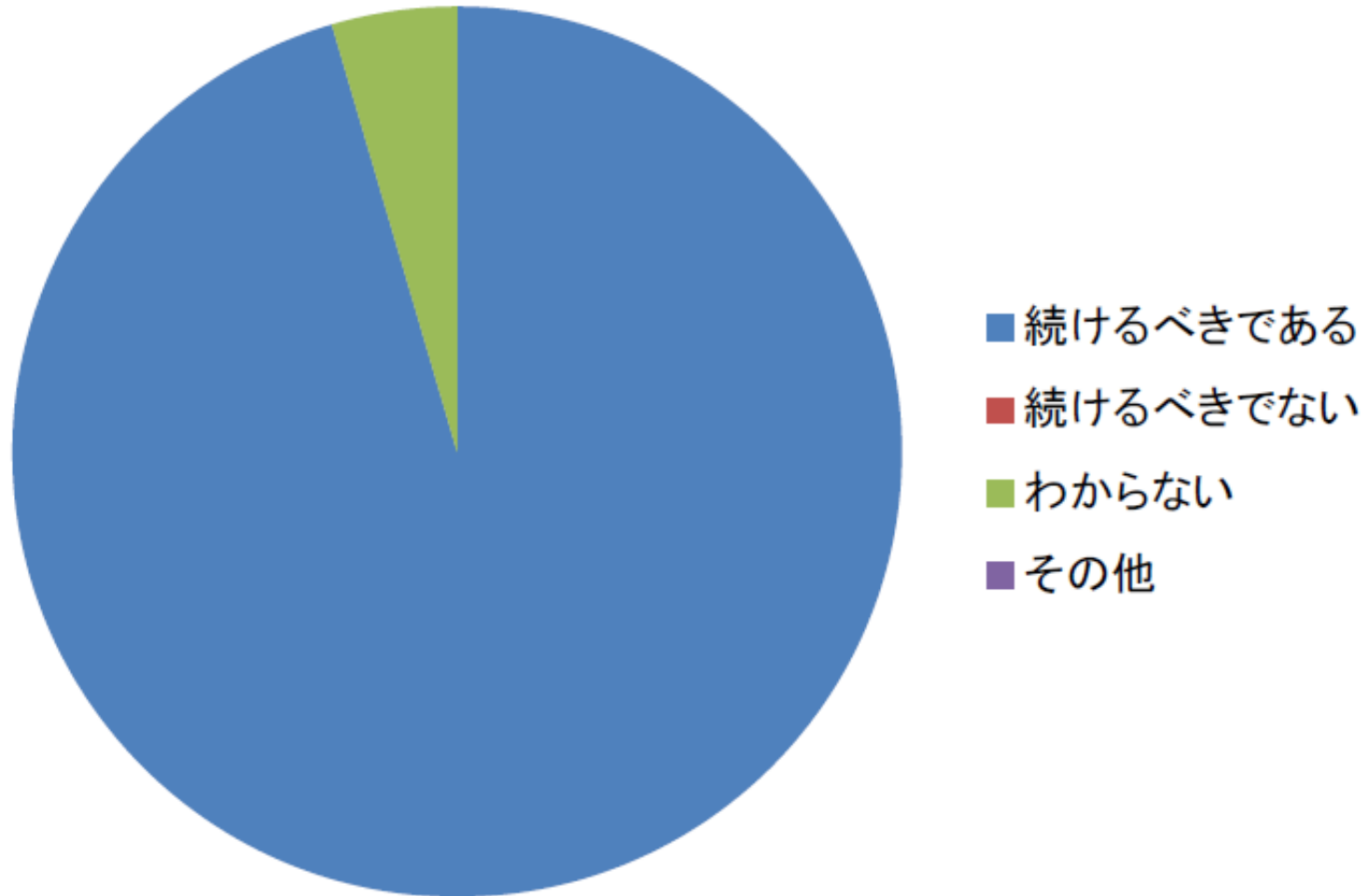
1回:90分

		(全体)	大学等	4年制(昼)	3年制(昼)	夜間
1	1回	2	0	2	0	0
2	2回	4	1	1	2	0
3	3-5回	9	3	0	4	2
4	6-9回	2	1	0	1	0
5	10-19回	5	3	0	2	0
6	20-29回	7	5	1	1	0
7	30回以上	6	6	0	0	0
8	その他	9	3	4	2	0
合計		44	22	8	12	2

大学で剖出を伴う実習の実施回数が多く、
その他の養成校では、数回のみも多い

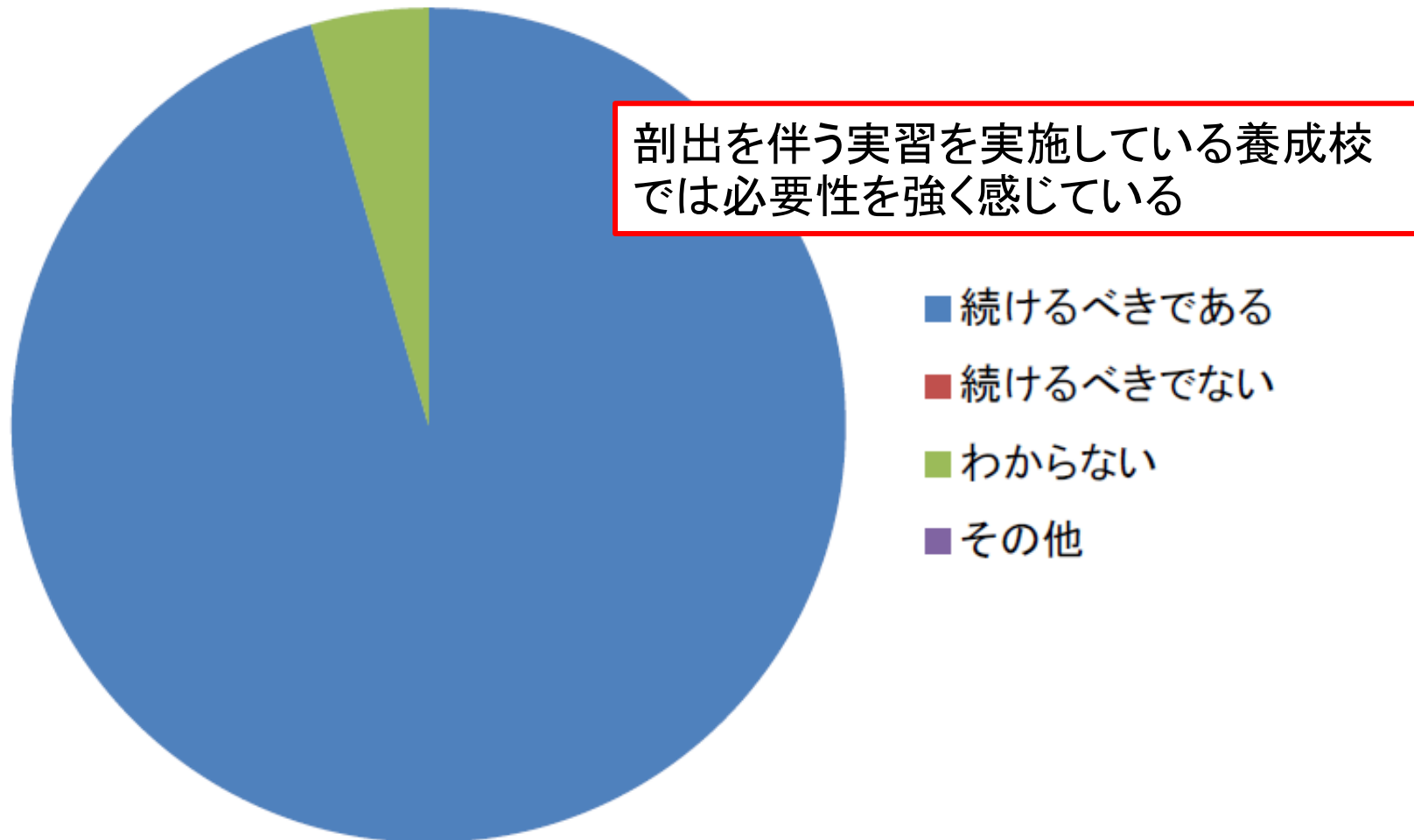
アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

剖出を伴う実習→続けるべきか？



アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

剖出を伴う実習→続けるべきか？



アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

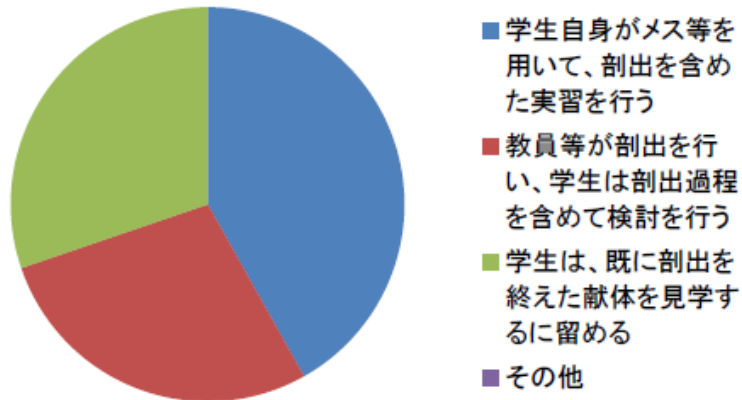
剖出を伴う実習→どのような不安があるか？

		全体
1	解剖学教室の教授、准教授が退職すると人体解剖学実習が出来なくなる可能性がある	24
2	自校で行っている人体解剖学実習そのものに関して、ホームページや大学案内などにどこまで情報を公開して良いのか具体的に分からない	9
3	人体解剖学実習で得られた学術的情報を、講義や実習、講演などでどこまで公開してもよいのか、公開するためにはどのような手続きなどが必要か、わからない。	2
4	人体解剖学実習で得られた知見を学会発表や論文発表するときどのような手続きなどが必要か、わからない。	2
5	指導者の数が不足している	15
6	理学療法士・作業療法士育成機関内での意見が統一されていない	12
7	教員が人体解剖学実習による学習の機会がない、知らない、死体解剖資格を取得するためのノウハウがなく、そういう教員を育成するシステムがない	16
8	その他	5
合計		85

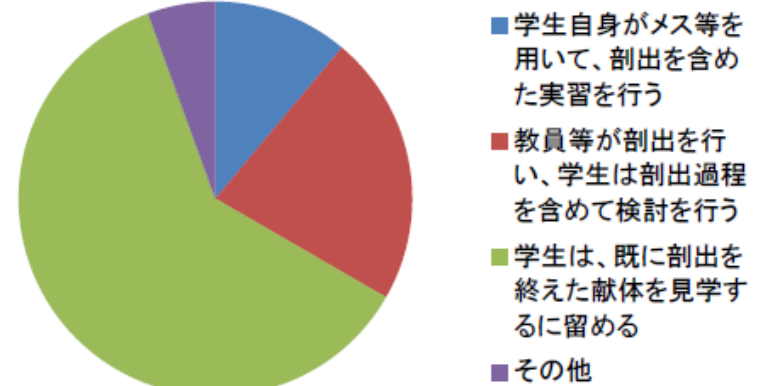
アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

標本・医学部剖出の実習を実施している養成校→どの実習形態が適当か？

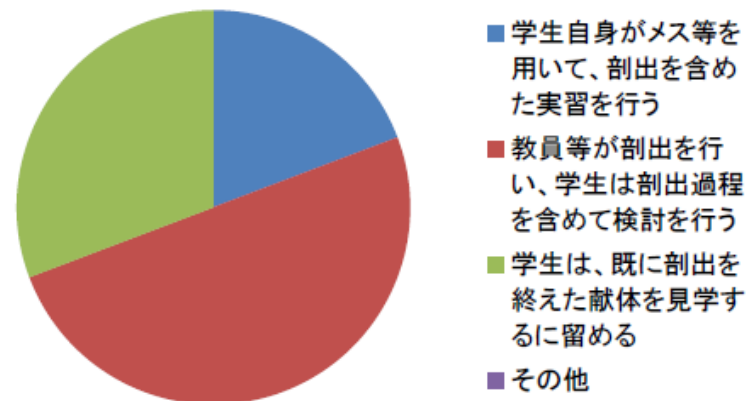
■大学・短期大学(n=43)



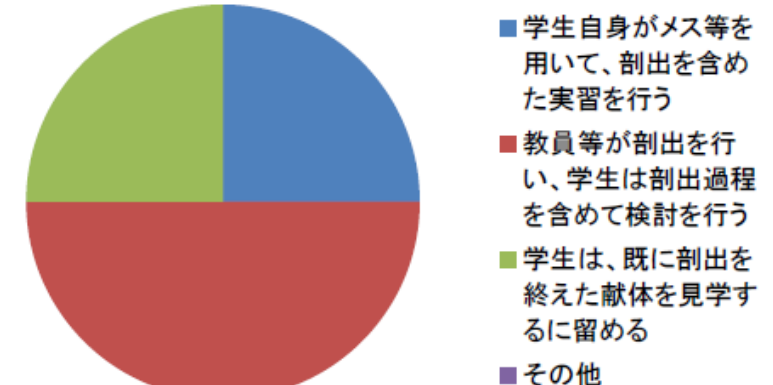
■4年制専門学校（昼間部）(n=18)



■3年制専門学校（昼間部）(n=26)



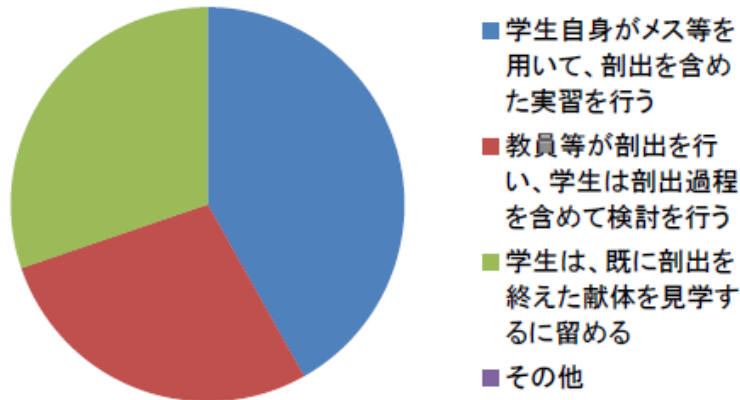
■4年制専門学校（夜間部）・3年制専門学校（夜間部）(n=12)



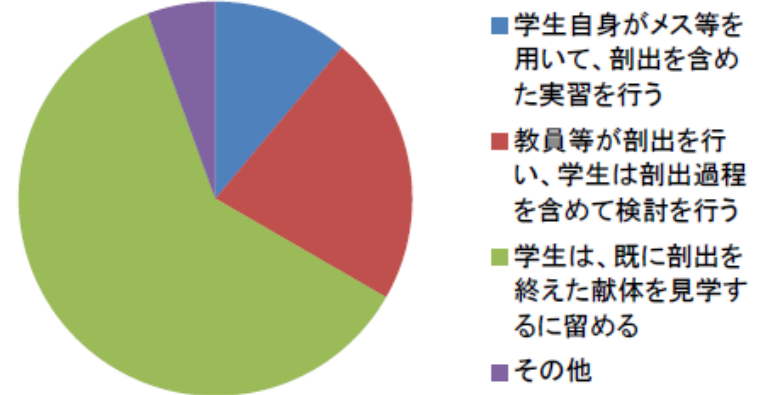
アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

標本・医学部剖出の実習を実施している養成校→どの実習形態が適当か？

■大学・短期大学(n=43)

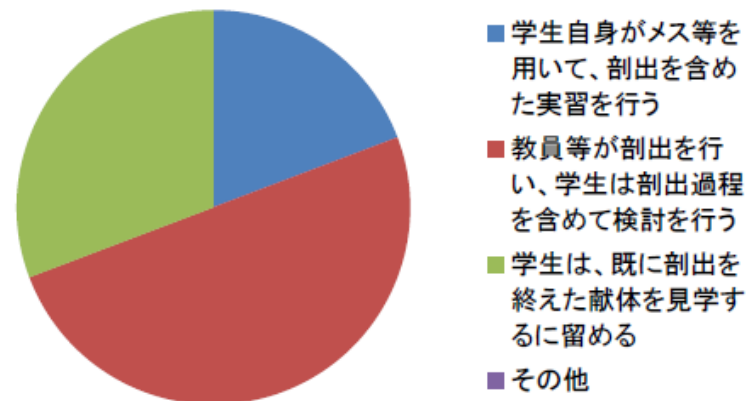


■4年制専門学校（昼間部）(n=18)

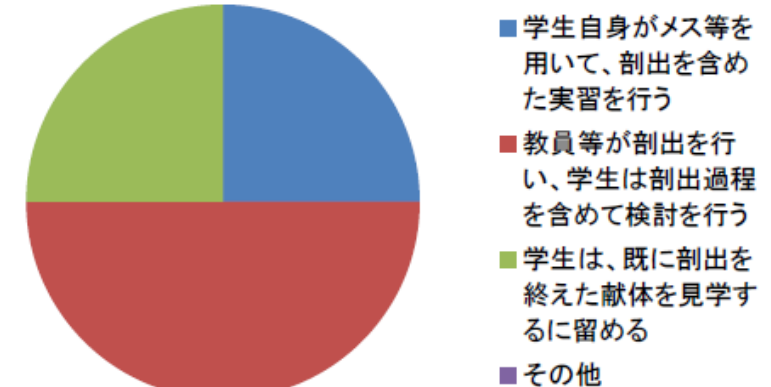


解剖学実習の形態については、様々な意見が混在している

■3年制専門学校（昼間部）(n=12)



■3年制専門学校（夜間部）(n=12)



アンケートからみる理学療法士の解剖学実習

アンケートのまとめ

大学での解剖学実習は・・・

解剖学教室にかかわりのあった教員が多く担当し、
学生が直接ご遺体に触れる実習を回数多く実施している。
同一法人内で実施することが多い。

剖出を伴う実習を実施している養成校では、

剖出を伴う実習を継続して実施する希望が多いが、
解剖学教室のご理解と協力のもと実施しており担当教授次第。
解剖学実習に従事する教員の数と質に課題あり。

剖出を伴わずに実施している養成校では、

解剖学実習の内容(実習形態)について様々な意見がある。

理学療法士協会と日本解剖学会の協議

- 2015年頃より、日本解剖学会の先生方と人体解剖WGが協議
- 2016年、アンケート実施
- 2017年、日本解剖学会学術集会、日本理学療法学術大会にて
合同シンポジウム開催
- 2017年、日本理学療法士協会、日本理学療法士学会から
日本解剖学会へ依頼書提出
『理学療法士養成課程における解剖学教育の在り方に関する検討会について』
- 2018年、日本解剖学会理事会から質問に対し回答
- 2019年、日本理学療法士協会 会長宛て文章
- 2022年、人体解剖実習検討委員会設置
アンケートWG、および 社会のコンセンサスを得る方法検討・実施WG

理学療法士協会と日本解剖学会の協議

- 2015年頃より、日本解剖学会の先生方と人体解剖WGが協議
- 2016年、アンケート実施
- 2017年、日本解剖学会学術集会、日本理学療法学術大会にて
合同シンポジウム開催
- 2017年、日本理学療法士協会、日本理学療法士学会から
日本解剖学会へ依頼書提出
『理学療法士養成課程における解剖学教育の在り方に関する検討会について』
- 2018年、日本解剖学会理事会から質問に対し回答
- 2019年、日本理学療法士協会 会長宛て文章
- 2022年、人体解剖実習検討委員会設置
アンケートWG、および 社会のコンセンサスを得る方法検討・実施WG

理学療法士協会と日本解剖学会の協議

一般社団法人日本解剖学会

理事長 岡部 繁男 様

公益社団法人 日本理学療法士協会

日本理学療法士学会

会長/学会長 半 田 一 登

理学療法士養成課程における解剖学教育の在り方に関する検討会について（依頼）
（中略）

つきましては、理学療法士養成課程における解剖学教育の重要性に鑑み、理学療法士の解剖学教育の在り方（理学療法士および関連職種の教育についての現状把握、ご遺体を使用した実習を行うことの意義、卒前/卒後のどの時期に行うべき教育なのか等についての議論を含む）に関する両学会による合同検討会の設置を提案いたしますので、本件に関し貴学会においてご検討いただきますようお願い申し上げます。

理学療法士協会と日本解剖学会の協議

- 2015年頃より、日本解剖学会の先生方と人体解剖WGが協議
- 2016年、アンケート実施
- 2017年、日本解剖学会学術集会、日本理学療法学術大会にて
合同シンポジウム開催
- 2017年、日本理学療法士協会、日本理学療法士学会から
日本解剖学会へ依頼書提出
『理学療法士養成課程における解剖学教育の在り方に関する検討会について』
- 2018年、日本解剖学会理事会から質問に対し回答
- 2019年、**日本理学療法士協会 会長宛て文章**
- 2022年、人体解剖実習検討委員会設置
アンケートWG、および 社会のコンセンサスを得る方法検討・実施WG

理学療法士協会と日本解剖学会の協議

令和元年11月15日

公益社団法人日本理学療法士協会

日本理学療法士学会

会長/学会長 半田 一登 様

一般社団法人日本解剖学会

理事長 八木沼 洋行



理学療法士養成課程における解剖学教育の在り方に関する検討会について（回答）

（中略）

理学療法士養成課程において剖出を伴う解剖実習の重要性につきましては理解いたします。また、これまでの様々な関係者のご努力に敬意を表します。

一方、理学療法士に限らず、コ・メディカルスタッフの養成課程において、剖出を伴う解剖実習を積極的に取り入れることの社会の理解が十分得られているとは言い難く、また、全国の医・歯学部解剖学教室の置かれている環境は厳しいものがあります。

つきましては、貴学会にて理学療法士養成課程における剖出を伴う解剖実習への社会の理解が進むようご努力いただき、さまざまな環境が整いましたら、協議を再開させていただければと考えております。

理学療法士協会と日本解剖学会の協議

- 2015年頃より、日本解剖学会の先生方と人体解剖WGが協議
- 2016年、アンケート実施
- 2017年、日本解剖学会学術集会、日本理学療法学術大会にて
合同シンポジウム開催
- 2017年、日本理学療法士協会、日本理学療法士学会から
日本解剖学会へ依頼書提出
『理学療法士養成課程における解剖学教育の在り方に関する検討会について』
- 2018年、日本解剖学会理事会から質問に対し回答
- 2019年、日本理学療法士協会 会長宛て文章
- 2022年、**人体解剖実習検討委員会設置**
アンケートWG、および 社会のコンセンサスを得る方法検討・実施WG

社会のコンセンサスを得る方法検討・実施WG

現状の課題

- 理学療法士の解剖学実習は、様々な形態や実施回数で行われており、統一的な指針やガイドラインがない
- 医学部歯学部解剖学教室への負担



何が求められるか

- 理学療法士の解剖学実習について、指針やガイドラインに基づき実施するよう検討が必要：理学療法士にとっての解剖学実習の位置づけ、共通認識をもつ
- 医学部歯学部解剖学教室への負担軽減の方策を検討する
- 理学療法士にとっての解剖学実習のメリットを理解し、共通認識のもとで実施していくことで、社会への責務を全うする実習（患者さんへ還元できるような実習）

理学療法士で解剖学実習にかかわる例

榊間春利

鹿児島大学医学部保健学科教授



●解剖学実習にかかわるきっかけ

大学院修士課程時に人体構造学研究室に在籍し、保健学科のご遺体解剖学実習に関わる。鹿児島大学理学療法学専攻の解剖学教員の後任として着任、理学・作業の学生に対する運動器、神経解剖学の講義、理学・作業・看護の学生に対するご遺体解剖学実習を担当。

●どのような解剖学実習を実施しているか

解剖学教室の指導のもと教員と院生が剖出したものや標本により実施。1日3コマ、7日間でご遺体解剖実習、7回模型を使用した実習を実施。運動器だけでなく、内臓器、脳・脊髄も実習。

●解剖学教室への負担軽減

医学科の解剖学実習に一部参画。研究面では機器の共同使用など協力関係にある。

理学療法士で解剖学実習にかかわる例

荒川高光

神戸大学大学院保健学研究科准教授



●解剖学実習にかかわるきっかけ

大学院生として保健学研究科に進学したときに肉眼解剖学を始め、指導教員から解剖学教室を紹介されて進学し学位取得、保健学科解剖学担当教室へ就職し、解剖学実習を担当。

●どのような解剖学実習を実施しているか

2年生後期に人体解剖学実習（看護、検査、理学、作業）、3年後期にも2度目の人体解剖学実習（理学）実施。保健学科実習指導の中心的役割を担う。

●解剖学教室への負担軽減

死体解剖資格を取得し（大学院生時）保健学科で実習予算を確保し、医学科解剖学教室へ付け替え。医学科解剖学の講義と実習を分担。実習書執筆の1部を担当（骨盤臓器）。

理学療法士で解剖学実習にかかわる例

江玉睦明

新潟医療福祉大学 医療技術学部教授



●解剖学実習にかかわるきっかけ

大学教員になる前の臨床勤務時代から解剖学教室の聴講生となり、解剖研究を実施。現在は、所属大学と日本歯科大学新潟生命歯学部と実習委託契約を交わして解剖学実習を実施。

●どのような解剖学実習を実施しているか

理学療法学科、作業療法学科、視機能科学科、看護学科への解剖実習を実施。理学療法学科は1年時観察中心、3年時は特に興味のある部位の観察を実施。単離標本を数多く保管し、関節包の動態や深部の靱帯などの観察も行っている。

●解剖学教室への負担軽減

金銭的：施設使用料＋実習料として学生1人×2000円×1回を支払っている。労力：実習の中心的担当者は歯科大学教授で、授業時に我々教員が補助として対応。

理学療法士で解剖学実習にかかわる例

菊池 真

札幌医科大学医学部解剖学第一講座准教授



●解剖学実習にかかわるきっかけ

博士課程在籍中に、医学部解剖学講座に助手として採用。細胞組織学と神経解剖学の講義と実習を担当。マクロ解剖学実習にも参加するようになった。

●どのような解剖学実習を実施しているか

医学部での実習全35回で、ご献体を用いた実習は23回。そのうち7回は医学部と保健医療学部の合同で、保健医療学部の教員も指導のため実習に参加。そのうち3回は保健医療学部の解剖学担当教授が指針の説明を実施。

●解剖学教室への負担軽減

解剖学教室所属の准教授として、解剖学実習に関わる。これまでミクロとマクロの両方で英語論文の実績多数。第二講座にも理学療法士在籍中。

理学療法士で解剖学実習にかかわる例

大道 裕介

金沢医科大学医学部解剖学Ⅱ 准教授



●解剖学実習にかかわるきっかけ

愛知医科大学医学部痛み学講座の故・熊澤孝朗教授に師事し、身体不活動による慢性痛の発症機序の解明について医学部解剖学講座と共同研究を開始、学位取得。その後、解剖学講座助教、講師、准教授に。

●どのような解剖学実習を実施しているか

所属医学部での実習指導の他、名古屋大学の人体解剖トレーニングセミナーの指導員として理学療法士のみならず、医療系学部（看護師、鍼灸師、柔道整復師、放射線技師など）の解剖教員を対象とした系統解剖学の指導を通じ、解剖教育者の育成に尽力。

大道 裕介

金沢医科大学医学部解剖学Ⅱ 准教授



●解剖学教室への負担軽減

医学部を含む基礎医学教員数の削減と研究業績主義の動きが大きな負担増となっている。実習関連の複数の事件、事故など懸案事項が起きている現状は、この問題を象徴しているように思う。また、研究業績主義への偏重は、解剖実習業務を十分に理解できていない管理者が多いことや、質の高い解剖実習指導が行われていないこと、そして、そのような教育環境で育った学生たちが、解剖実習の重要性を軽視した教員として配置されるという悪循環を生じさせている。これらの悪循環を断ち切るためには、適正な人員数を配置し、研究以外の教育やご遺体関連業務に関する適切な評価を行い、解剖実習業務に精通した管理者を配置することが必要。

理学療法士養成校における解剖学教育の現状と未来に向けた課題

- 理学療法士に求められる多様な専門性を背景に、専門基礎としての解剖学教育の充実が求められる
- 理学療法士の学会と日本解剖学会とで、これまで解剖学実習に対しての協議を重ねてきた
- 我々理学療法士の共通認識としての解剖学実習のあり方、社会に受け入れられる実習内容を含め、コンセンサスを得られるよう検討していく
- 解剖学教育、解剖学実習に従事できる優秀な人材を育成し、解剖学を担う次世代を輩出する

理学療法士養成校における解剖学教育の現状と未来に向けた課題

人体解剖実習検討委員会(理学療法士)

河上 敬介
(担当理事)
大分大学

榊間 春利
鹿児島大学

荒川 高光
神戸大学

江玉 睦明
新潟医療福祉大学

浦川 将
広島大学

坂本 淳哉
長崎大学

菊池 真
札幌医科大学

堀 紀代美
金沢大学

成田 大一
函館市医師会看護・リハビリ
テーション学院